

発声発語障害リハビリテーション治療学演習

[演習] 第1・2学年 後期 選択 2単位

《担当者名》○ 才川悦子 saikawa@hoku-iryo-u.ac.jp 柳田早織

【概要】

発声発語障害リハビリテーション治療学特論で学習する理論的基盤を実践するための実技的学習を行う。

【学修目標】

高度臨床専門職として必要とされる発声発語障害の評価、リハビリテーションを実践するために、実技の習得に特化した演習を行う。

1. 発声障害について、聴覚心理的、空気力学的、音響的側面から精密な評価を行える。
2. 構音障害について、構音、構音関連運動、音響的側面から精密な評価を行える。
3. 医師による形態、運動の評価を理解し、診断に関する適切な提言を行える。
4. 医師による治療方針を理解し、手術、投薬などの医療行為と強調した適切なリハビリテーション方策を立案できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	演習の位置づけと進め方について説明し、2回目以降の作業内容を調整する。	才川悦子 柳田早織
2～4	発声発語障害の医学的側面に関する演習	医師の指導の下に、内視鏡検査、透視録画検査、電気生理学的検査などの演習を行う。 最終回にはレポートを提出する。	才川悦子
5	医学的側面に関するディスカッション	提出されたレポートに関して教員と議論し、内容に関するフィードバックをうける。	才川悦子
6～8	発声発語障害のリハビリテーション的側面に関する演習	聴覚心理的評価、発声機能検査、音響分析、自覚的評価などの演習を行う。 最終回にはレポートを提出する。	柳田早織
9～13	臨床見学	言語外来における発声発語障害診療の実際を見学し、症例の臨床的問題点とその解決策に関するレポートを提出する。	才川悦子
14・15	まとめ	提出されたレポートに関するディスカッションを行う。	才川悦子 柳田早織

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート 50% ディスカッション 50%（才川担当分、柳田担当分）

【学修の準備】

予習は、関連の文献等関係資料を各自調査し学習すること（80分）

復習は、プリント、講義メモを活用して学習を深めること（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、高度専門職業人としてリハビリテーション科学の実践に寄与できる優れた知識・技術と研究能力の基礎を修得するというリハビリテーション科学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

才川悦子（医師）、柳田早織（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、発声発語障害の評価およびリハビリテーションを実践するための演習を行う。